

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和3年5月6日(2021.5.6)

【公表番号】特表2020-515581(P2020-515581A)

【公表日】令和2年5月28日(2020.5.28)

【年通号数】公開・登録公報2020-021

【出願番号】特願2019-553220(P2019-553220)

【国際特許分類】

A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 P	31/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	37/06	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 K	31/506	(2006.01)
A 6 1 K	31/5025	(2006.01)
A 6 1 K	35/17	(2015.01)
A 6 1 K	39/395	(2006.01)
A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 K	45/06	(2006.01)
C 1 2 N	5/10	(2006.01)
C 1 2 N	5/0783	(2010.01)

【F I】

A 6 1 K	45/00	
A 6 1 P	31/00	Z N A
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	37/06	
A 6 1 P	43/00	1 1 1
A 6 1 K	31/506	
A 6 1 K	31/5025	
A 6 1 P	43/00	1 2 1
A 6 1 K	35/17	Z
A 6 1 K	39/395	N
A 6 1 K	48/00	
A 6 1 K	45/06	
C 1 2 N	5/10	
C 1 2 N	5/0783	

【手続補正書】

【提出日】令和3年3月26日(2021.3.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ヒトである対象にてT細胞の疲弊を防ぐ及び/または元に戻す方法であって、前記方法が治療上有効な量のチロシンキナーゼ阻害剤を前記対象に投与することを含み、前記チロシンキナーゼ阻害剤がT C Rのシグナル伝達及び/またはC A Rのシグナル伝達を阻害す

る方法。

【請求項 2】

前記チロシンキナーゼ阻害剤がLck阻害剤である請求項1に記載の方法。

【請求項 3】

前記チロシンキナーゼ阻害剤がダサチニブまたはボナチニブである請求項1に記載の方法。

【請求項 4】

前記投与することにより、

前記対象にてT細胞によるIL-2の分泌を高めること

前記対象にてT細胞のアポトーシスを減少させること

PD-1、TIM-3及びLAG-3から成る群から選択される少なくとも1つのT細胞の疲弊マーカーの発現を低下させること、及び

CD62LまたはCCR7の発現を高めること

のうちの1つ以上が生じる請求項1に記載の方法。

【請求項 5】

前記チロシンキナーゼ阻害剤が複数サイクルで投与され、且つ/または

前記チロシンキナーゼ阻害剤が予防的に投与され、且つ/または

前記チロシンキナーゼ阻害剤が間欠的に投与され、且つ/または

前記チロシンキナーゼ阻害剤が少なくとも部分的なT細胞機能を回復させるのに十分な期間投与され、その後中止され、且つ/または

前記チロシンキナーゼ阻害剤が経口で投与される請求項1に記載の方法。

【請求項 6】

前記対象が慢性感染症またはがんを有する請求項1に記載の方法。

【請求項 7】

遺伝子操作したT細胞の集団を含む組成物であって、前記遺伝子操作したT細胞の集団がチロシンキナーゼ阻害剤の存在下で増殖され、前記チロシンキナーゼ阻害剤がTCRのシグナル伝達及び/またはCARのシグナル伝達を阻害する組成物。

【請求項 8】

前記チロシンキナーゼ阻害剤がLck阻害剤である請求項7に記載の組成物。

【請求項 9】

前記チロシンキナーゼ阻害剤がダサチニブまたはボナチニブである請求項7に記載の組成物。

【請求項 10】

前記遺伝子操作したT細胞の集団が、CAR-T細胞の集団、遺伝子操作したTCRを発現するT細胞の集団、腫瘍浸潤リンパ球(TIL)療法のために構成された遺伝子操作したT細胞の集団、形質導入T細胞療法のために構成された遺伝子操作したT細胞の集団、及び/またはTCRもしくはCARで再操作されたウイルス特異的なT細胞の集団から選択される請求項7に記載の組成物。

【請求項 11】

免疫系に関連する状態または疾患を治療する方法であって、チロシンキナーゼ阻害剤の存在下で増殖させた遺伝子操作したT細胞の集団をヒトである対象に投与することを含み、前記チロシンキナーゼ阻害剤はTCRのシグナル伝達及び/またはCARのシグナル伝達を阻害し、前記遺伝子操作したT細胞の集団は、CAR-T細胞の集団、遺伝子操作したTCRを発現するT細胞の集団、腫瘍浸潤リンパ球(TIL)療法のために構成された遺伝子操作したT細胞の集団、形質導入T細胞療法のために構成された遺伝子操作したT細胞の集団、及び/またはTCRもしくはCARで再操作されたウイルス特異的なT細胞の集団から選択され、前記免疫系に関連する状態または疾患ががんまたは自己免疫の疾患もしくは状態から選択される方法。

【請求項 12】

前記チロシンキナーゼ阻害剤がLck阻害剤である請求項11に記載の方法。

【請求項 1 3】

前記チロシンキナーゼ阻害剤がダサチニブまたはボナチニブである請求項1_2に記載の方法。

【請求項 1 4】

前記対象が養子T細胞療法を受けている請求項1_1に記載の方法。

【請求項 1 5】

前記対象に、化学療法剤及び放射線療法から選択される1以上の抗がん剤を投与することをさらに含む請求項1_1に記載の方法。